立教大学学術推進特別重点資金（立教ＳＦＲ）
プロジェクト研究（共同プロジェクト研究）
２０１５年度研究【経過・成果】報告書

	所属部局･職	氏　名
研究代表者	文学部・准教授	小澤　実　　印
研究課題	グローバルヒストリーのなかの近代歴史学	
研究組織	所属研究機関・部局・職	氏　名
	立教大学・文学部・教授	石井規衛
	立教大学・文学部・教授	奈須恵子
	立教大学・文学部・准教授	佐藤雄基
	学習院女子大学・国際交流学部・准教授	工藤晶人
	慶応義塾大学・経済学部・准教授	松沢裕作
研究期間	２０１４年度　～　２０１６　年度	

研究経費	２０１４　年度	２０１５年度	２０１６年度	総計
(上段：支出金額)	3,000,000 円	1,799,943 円	円	4,799,943 円
(下段：採択金額)	3,000,000 円	1,800,000 円	1,200,000 円	6,000,000 円

研究の概要（200～300 字で記入、図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究は、近代日本における歴史家が、具体的にどのような西洋学の方法論や文献を下敷きとして、彼ら自身の研究を構築したのかを再構成し、近代日本における学術知識の流入ならびに日本の文脈におけるその解釈プロセスを明らかとする、史学史（歴史学の歴史）的試みである。その試みは、従来の史学史のように、日本における歴史思想という狭い意味での日本思想史という枠に閉じこもるものではなく、検討成果を世界の歴史学の潮流とその背景にある近代世界システムのなかに置き直すことによって、史学史のグローバルヒストリーを目指すものである。研究組織各位が個人のテーマを進めるとともに、定期的に開催される研究会・講演会・シンポジウムに参加し、討議を行うことで、所定の目的を達成することを期待している。

キーワード（研究内容をよく表しているものを３項目以内で記入。）

〔　史学史　〕〔　グローバルヒストリー　〕〔　近代日本　〕

研究【経過・成果】の概要（図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究では、具体的に（１）近代日本の歴史家に対する西洋学知の影響、（２）歴史概念の比較史的研究、そして（１）と（２）を踏まえた上での（３）立教大学における歴史学の展開に焦点を絞り、近代日本における史学史の歩みを明らかにすることを申請書に記した。とりわけ本年度は、（１）と（２）の史資料に即した具体的論点を明示化するために、研究代表者ならびに共同研究者が個々に文献調査と内外の出張を行うことで論集に向けた研究を進めるとともに、研究会を組織し、（い）読書会、（ろ）研究会、（は）公開講演、（に）公開シンポジウムを開催した。順次説明する。

（い）読書会
　昨年に引き続き読書会では、共同研究者の佐藤雄基が中心となり、「岩波講座日本歴史」に収録されている論文を対象に、教員と大学院生による討議により、各論文の歴史上ならびに史学史上の論点を明らかにした。

（ろ）研究会（いずれも立教大学にて開催）
第７回（２０１４年５月１９日）
室井康成（国際日本文化研究センター）「日本民俗学の成立」
第８回（２０１５年７月２８日）
神野潔（東京理科大学）「近代法史学史の中の穂積陳重」
第９回（２０１６年３月５日）
佐藤雄基（立教大学）「比較封建制論における日本－朝河貫一を中心に」
奈須恵子（立教大学）「旧制高等学校「歴史」入学試験にみる「関係史」－その変遷と拡大について－」
石井規衛（立教大学）「史学と地域的磁場－日本におけるロシア近・現代史研究を例に」
小澤実「近代ヒストリオグラフィー研究の射程」
藤波伸嘉（津田塾大学）「イブラヒム・ハックと『国際法史』」
小澤実（立教大学）「平泉澄とヨーロッパ」
工藤晶人（学習院女子大学）「ブローデルと植民地の地理学」
金澤周作（京都大学）・西山暁義（共立女子大学）＋会場全員「総合討論」

（は）公開講演会（２０１４年７月２５日、立教大学）
ディディエ・カーン（パリ国立高等研究院）＋ヒロ・ヒライ（ナイメーヘン大学）「錬金術の秘密：中世・ルネサンスのキミアと学問・宗教・社会」

（に）公開シンポジウム（（４）のみ慶應義塾大学、その他は立教大学にて開催）
（１）公開シンポジウム（2015 年６月 20 日：主催は文学部・本研究会は共催）
「宗教改革の伝播とトランス・ナショナルな衝撃：宗教改革 500 周年に向けて」
ケネス・G・アッポルド（プリンストン神学大学）“Reformation Studies on the Eve of the Quincentennial”
那須敬（国際基督教大学）“Discord in the Air: Music and the Church of England in the Early Seventeenth Century”
古谷大輔（大阪大学）“The Reformation and Conglomerate State: The Scandinavian Perspective on the Dynastic Unification and Confessionalization”
早川朝子（東都医療大学）“Eschatology among the Anabaptists in Augsburg”
加藤喜之（東京基督教大学）“Calvinistic Cartesian?: The Dutch Reformed Religion and the Reception of the New Science”
踊共二（武蔵大学）“Reformation Studies in Japan: Past and Present”

研究【経過・成果】の概要　つづき

（２）公開シンポジウム（２０１５年１１月７・８日：主催は日本学研究所・本研究会は共催）
「近代日本の偽史言説　その生成・機能・受容」
小澤実（立教大学）「偽史言説へのアプローチ」
第１部：神代史という伏流
三ツ松誠（佐賀大学）「神代文字と平田国学」
永岡崇（日本学術振興会）「自己増殖する偽史：竹内文献の旅と帝国日本
第２部：「歴史」の創造」
馬部隆弘（大阪大谷大学）「偽文書「椿井文書」が受容される理由」
石川巧（立教大学）「戦時下のプロパガンダ：小谷部全一郎『成吉思汗ハ源義経也』を読む」
長谷川亮一（千葉大学）「「日本古代史」を語るということ：「皇国史観」と「偽史」のはざま」
第３部：海外偽史との接触
庄子大亮（関西大学）「「失われた大陸」言説の系譜：日本にとってのアトランティスとムー大陸」
津城寛文（筑波大学）「日猶同祖論：旧約預言から『ダ・ヴィンチ・コード』まで」
高尾千津子（東京医科歯科大学）「ユダヤ陰謀説：日本における「シオン議定書」の伝播と受容」

（３）公開シンポジウム（２０１５年１２月１９日：主催は日本学研究所・本研究会は共催）
「史学史上の黒板勝美」
佐藤雄基（立教大学）「黒板勝美研究の可能性」
廣木尚（早稲田大学）「日本近代史学史研究の現状と黒板勝美の位置」
リサ・ヨシカワ（ホバート・アンド・ウィリアム・スミス・カレッジ）「近代日本の国家形成と歴史学：黒板勝美を通じて」
松沢裕作（慶応義塾大学）「コメント」

（４）公開シンポジウム（2016 年３月６日：主催は他科研・本研究会は共催）
「外国史家が読み解く『近代日本のヒストリオグラフィー』」
小澤実（立教大学）「はじめに」
松沢裕作（慶応義塾大学）「『近代日本のヒストリオグラフィー』の意図と達成」
菊地重仁（青山学院大学）「近代日本におけるヨーロッパ中世研究：ドイツ歴史学界との関わりから」
小山哲（京都大学）「「史学史」の線を引き直す――ヒストリオグラフィーにおける「近代」をどう捉えるか」
岸本美緒（お茶の水女子大学）「近代東アジアの歴史叙述における「正史」」

下記のシンポジウムは本プロジェクトの主催・共催ではないが、小澤と奈須が企画実行に深く関わるものであり、活字業績を本研究の一部として刊行するため、記す。
（５）公開シンポジウム（２０１６年３月１９日：主催は人文研究センター）
「高校世界史教科書の記述を考える」
長谷川修一（立教大学）「趣旨説明」
中澤達哉（東海大学）「高校世界史教科書と中東欧記述」
森本一夫（東京大学）「世界史教科書中の『イスラーム史』をめぐって」
茨木智志（上越教育大学）「世界史教科書の出発」
新保良明（東京都市大学・元文科省教科書調査官）「世界史教科書と教科書検定」

※　この（様式２）に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（Ａ４縦型横書き１枚・自由様式）を添付すること。

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

①
「シンポジウム　宗教改革の伝播とトランス・ナショナルな衝撃：宗教改革 500 周年に向けて」『史苑』76-1（2015）134-169 頁【（に）（１）の成果】
加藤喜之「序」134-136 頁
ケネス・G・アッポルド（井上周平訳）「宗教改革のグローバルな理解に向けて」137-151 頁
踊共二「日本の宗教改革史研究　過去・現在・未来」152-169 頁

奈須恵子「世界史の中に日本史を位置づける歴史学習－世界史 A における日本史学習の指導法について－」『教職研究』（立教大学）26（2015)、29-38 頁

ディディエ・カーン（小澤実訳）「中世・初期近代錬金術における変成と宗教」『史苑』76-2（2016)、225-276 頁【（は）の成果】

佐藤雄基（向井伸哉・斎藤史朗との共著)、「朝河貫一とマルク・ブロックの往復書簡-戦間期における二人の比較史家」、『史苑』76-2（2016)、225-276 頁

小澤実「高校世界史教科書と中世ヨーロッパ：時代区分・舞台設定・グローバルヒストリー」『じっきょう地歴・公民科資料』82（2016)、1-8 頁

②
松沢裕作編『近代日本のヒストリオグラフィー』（山川出版社、2015）
松沢裕作「修史局における正史編纂構想の形成過程」、3-26 頁
佐藤雄基「明治期の史料採訪と古文書学の成立」、27-57 頁

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵（編)『新しく学ぶ西洋の歴史:アジアから考える』（ミネルヴァ書房、2016）
小澤実「バルト海世界の政治秩序」17-18 頁
工藤晶人「植民地とアフリカの年」314-315 頁

③
上記研究の経過を参照

④
ここでは本年度の研究成果の概要に基づき、刊行準備中の成果を記す。（に）-（１）は、その概要を『日本学研究所年報』13/14 号（2016）に、そして執筆者を増補し、小澤実編『近代日本の偽史言説　その生成・機能・受容』（勉誠出版、2016）として刊行予定。（に）-（３）は、『日本学研究所年報』13/14 号（2016）に掲載予定（一部原稿提出済み)。（に）-（４）は『史苑』77-1 に掲載予定（原稿一部提出済み)。（に）-（５）は、2015 年３月４日に開催された「高校世界史教科書記述・再考」（文学部主催・本研究会共催）の成果と合わせ、論集として刊行予定（原稿一部提出済み)。さらに、本研究の集大成として、小澤実・佐藤雄基編『グローバルヒストリーのなかの近代歴史学（仮)』として２０１７年度に刊行予定。